

地域での学びが受験を拓いた

愛媛大学 社会共創学部 合格者ふたりに聞く



弦田 玲那

愛媛大学 社会共創学部

地域資源マネジメント学科 / 総合型選抜Ⅰ 合格



沖田 結

愛媛大学 社会共創学部

環境デザイン学科 / 総合型選抜Ⅰ 合格

同じ大学、同じ受験日——。ふたりは3年間を内子高校で過ごし、ともに総合型選抜試験で愛媛大学社会共創学部合格した。郷土芸能部や美術部での地域との関わり、探究活動の取り組み、そして先生方の手厚いサポート。内子高校での学びと、内子町の支援による受験対策講座が合格を後押しした。2026年4月、内子高校内に学習センターが開設される。「もしあったら絶対使っていた」と、ふたりは口をそろえる。

Q1 内子高校を選んだ理由は？

弦田

家から通いやすかったことに加えて、姉が郷土芸能部で太鼓をしている姿を見て「かっこいいな」と思い、入学を決めました。実際に入ってから、地域のイベントや高齢者施設で演奏する機会も多く、やりがいを感じる場面がたくさんありました。

沖田

中学3年生の体験入学で受けた国語の授業が決め手でした。生徒の興味を引き出す工夫がある授業で、「この学校で学びたい」と感じました。学校の雰囲気や部活動も、自分に合っていると思ったことが大きかったです。

Q2 最も印象に残った高校の活動は？

弦田

探究の時間に、いかざき大風合戦に関わる大風づくりに取り組んだことです。後継者不足という地域課題に向き合い、「自分たちが次につなぐ側になろう」と2年間かけて制作しました。実際にグラウンドで揚げることもでき、この経験は受験書類にも生かせました。

沖田

1年生のホームルームで、進学先について調べたり考えたりする時間を多く取ってもらえたことです。早い段階から進路を意識できたことで、自分の方向性を決めやすくなりました。西日本豪雨で肱川が氾濫した経験が、防災への関心を持つ原点になっています。

“

日頃から外の世界に出てみて。思いがけない出会いが、自分の価値観と将来を形づくってくれる。

— 弦田 玲那

Q3 受験対策で役立ったことは？

弦田

担任の先生に約1か月、放課後の面接練習を見てもらいました。小論文も先生に継続して添削していただき、とても心強かったです。内子町が開催してくれたグループディスカッション講座では、他校や県外の生徒と練習することで視野が広がり、本番でも落ち着いて対応することができました。

沖田

志望理由書の添削講座や先生方のサポートがなければ、小論文も含めて準備が間に合わなかったと思います。弦田さんと一緒に対策を続けられたことも、モチベーションの維持につながりました。

内子町による支援講座について

グループディスカッション対策や志望理由書添削など、内子町が実施した受験対策講座は、受験準備を進めるうえで大きな支えとなりました。今後も学習センターのスタッフと共に、内子町からの支援は継続していく予定です。

Q4 普段の学習場所と学習センターへの期待は？

弦田

普段は自宅や図書館を利用することが多かったです。「校内に学習センターがあったら、絶対使っていた」と思います。放課後そのまま使える学習場所があれば、受験対策にももっとスムーズに取り組めたと思います。

沖田

自宅で集中できない時は、地域の公共施設を利用して勉強していました。学習センターがあれば、入学後の早い段階から使い始めて、小論文や書類準備も早めに進められたと思います。自宅以外に集中できる場があることは、大きな支えになるはずです。

Q5 後輩へ一言メッセージを。

弦田

2年生のうちから小論文や書類準備を少しずつ始めておくことが大切です。地域の外に出て活動してみると、思いがけない出会いや経験が、自分の価値観や進路を形づくってくれます。早いうちから一歩踏み出してみてください。

沖田

学習センターをぜひ積極的に活用してほしいです。受験本番は1日でも、書類に書ける経験や準備は3年間の積み重ねでしかつくられません。早い段階から、自分の強みになる経験を少しずつ増やしていきましょう。